

平成 15 年 11 月 29 日

「池袋の路面電車とまちづくりの会」設立総会&シンポジウム 『熱く語ろう！池袋LRT構想』開催

本日 29 日（土）、東京信用金庫本店ビル大ホール（東池袋 1-12-5）で、区が導入を検討している超低床路面電車（LRT）構想に賛同する区民有志で組織する、「池袋の路面電車とまちづくりの会」（宮田和昌会長）の、設立総会を兼ねたシンポジウム『熱く語ろう！池袋LRT構想』が開催された。

近年、都内各地で大型都市開発が進む中、池袋は副都心としてのかつての求心力を失いつつある。また、他の街と比較して、独自の個性が今ひとつ乏しいとも言われる、池袋のマイナスイメージを払拭し、人々が集い合う魅力的なまちづくりを進めることは、行政のみならず区民・事業者も含めた地域全体の課題である。

このため、区は本年 2 月、今年度（15 年度）予算の重点施策として、「池袋副都心再生プランの策定」を発表。副都心としての池袋の総合的・戦略的なまちづくりを展開していくにあたり、今後 10 年間に実施・着手すべきプロジェクトをまとめ、来年 3 月のプラン策定をめざしている。その検討課題のひとつとして、池袋東口メインストリートであるグリーン大通りのトランジットモール化とLRTの導入構想を掲げ、現在検討を進めている。

LRTは、高齢者社会に対応したバリアフリー設計でかつクリーンなエネルギーで、人と環境にやさしい、新世代の公共交通システムとして注目されている。池袋の街並みを一変させる可能性を秘めたこの区の構想に触発され、区民も参加して共にまちづくりの方向性を考えようと、本年 8 月に地域から有志が集まり、「区民フォーラムトランジットモールとまちのにぎわい」を開催、これを機に「池袋の路面電車とまちづくりの会」を発足させることとなった。今回のシンポジウムは、同会の設立総会を兼ねて開催された。

10 時 30 分より開かれたシンポジウムには、会場に入りきれないほどの区民が駆けつけ、会場は、池袋再生にかける想いを表すかのような熱気に溢れかえった。始めに高野之夫区長が「区民が変えたいと願った瞬間から、街は変わっていく。そのために、区民に夢を与えるということは行政の大切な仕事。財政的に大変厳しい状況だが、区民の理解を得ながら、最少の費用で最大の効果を得られるよう頑張りたい」「これまで豊島区といえば、巣鴨、サンシャインだった、これからはLRTが走っている街だと区民が胸を張って言えるような、まさに日本をリードする様な素晴らしい電車にしたい」とLRT構想にかける情熱を熱く語った。

その後、黒川和美氏（法政大学経済学部教授）は、長期的な視点で、豊島区における理想的なLRT構想の形を、各国のLRTの事例を紹介しながら説明。その中で、黒川氏はオリジナルデザインの重要性を指摘し、池袋にオリジナルでスマートなデザインの電車が走ることで、街のイメージアップに繋がることを強調した。また、歩く目線で街を眺めることができるLRTを中心とした、人と人が行きかう新しいライフスタイルが、世界に開かれた街の環境を創ることや、街、鉄道事業者、企業が一体となって支え合うことで、どの電車にも乗り換えがスムーズに行なえる、高齢者や障害者にやさしい街を作ることができるとの考えを語った。最後に「新しい都市の哲学と結びついているからこそ、区民のLRTに対する支持が熱い」「現在の池袋は多数の先端企業や東京劇場などがあっても、それらがうまく繋がっていないが、LRTはそれらを繋げる可能性を持っている。」と締めくくった。

問合せ 池袋の路面電車とまちづくりの会